

ReWireの使い方

ReWireって何？

ReWire とは、複数のアプリケーションを接続し同期させる事が出来る機能です。複数のアプリケーション間で Audio/MIDI の情報をやりとりしながら同時にそれらのアプリケーションを操作する事が可能になります。

例えば、Logic に Renoise を接続すれば、Logic で曲の大部分のアレンジをしながら Renoise でドラムだけを打ち込んだり出来ます。また、Renoise に Reason と Ableton Live を繋いで、Renoise で曲をアレンジし Reason の内蔵シンセをコントロール、Live でループ・プレイを楽しむ、なんて事も可能です。ReWire に対応したアプリケーションがあれば、様々な組み合わせでトラック・メイキングを楽しむ事が出来ます。

ReWire には次の2つのモードがあります。Renoise はどちらにも対応しています。

ReWire Master

これは一般的に「ミキサー・アプリケーション」と呼ばれ、他の "ReWire スレーブ" をコントロールする立場となります。ReWire マスター は独占的にサウンドカードを使用します。ReWire スレーブは、マスターを通してオーディオをルーティングしなければなりません。一度に複数のアプリケーションをスレーブとして使用する事は出来ませんが、マスターは1つです。

ReWire Slave

こちらは「シンセ・アプリケーション」と呼ばれ、ReWire マスターによってコントロールされる立場です。スレーブはマスターから MIDI信号を受信し、マスターへとオーディオ信号を送信します。また、スレーブからもMIDI信号を送信する事が可能なので、マスターの再生位置を変更したりする事も出来ます。

Renoise はマスターでもスレーブでも使用可能なので、他のどんなソフトとも (ReWire対応ソフトなら) 接続する事が出来ます。

ReWire アプリケーションの起動・終了の手順

起動の手順

まず最初に、ReWireマスターとなるソフトを起動します。そして ReWireスレーブを起動します。

終了の手順

まず ReWireスレーブを終了します。そして ReWireマスターを終了します。

重要！！ 製作中の曲をセーブする場合、その曲をマスターとスレーブ両方のアプリケーション内で個別にセーブする必要があります。さらに、その曲をロードする場合も、マスターとスレーブでそれぞれ個別にロードしなければなりません。ReWire はオーディオとMIDIのルーティングだけを扱います。曲やパッチのデータを自動的にセーブする事はありません。

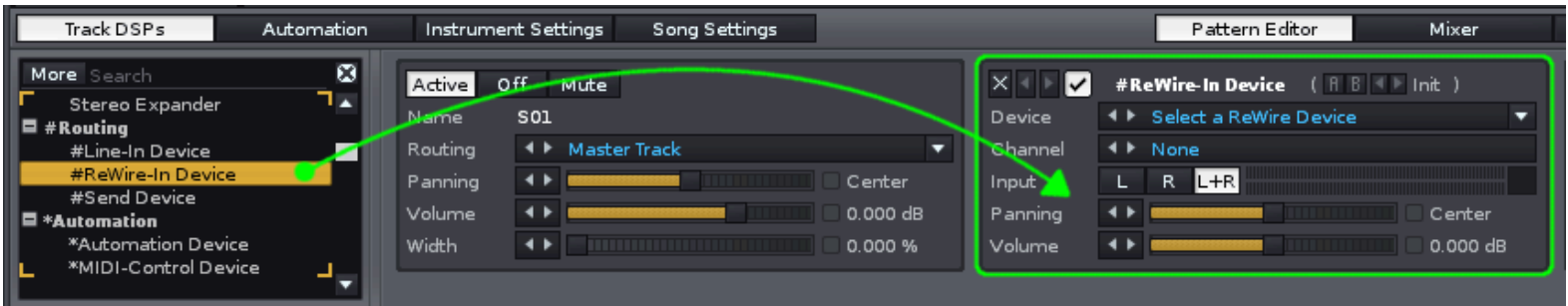
つまり基本的なワークフローは次のようになります。

- 1) ReWireマスターを起動 (以前のプロジェクトをロード)
- 2) ReWireスレーブを起動 (以前のプロジェクトをロード)
== =トラック・メイキング== =
- 3) ReWireスレーブ側でプロジェクトをセーブし、スレーブを閉じる
- 4) ReWireマスター側でプロジェクトをセーブし、マスターを閉じる

Renoise を ReWire マスターとして使う方法

まず最初に、他に ReWireマスターとなるソフトが起動していない事を確認してください。そして Renoise を起動します。すると自動的に Renoise は ReWireマスターとなります。

"Track DSPs 画面" で "#ReWire-In Device" を選択し、どのトラックでもいいのでロードします。センド・トラックにロードするのがいいかもしれません。



"#ReWire-In Device" パネルに "Device" という欄があるのでそこをクリックすると、あなたのパソコンにインストールされている ReWireスレーブのリストが表示されるので、どれか1つ選んでください。大抵の場合、そのスレーブは自動的に起動しますが、もし起動しない場合は手動でそのスレーブ・ソフトを立ち上げてください。



これだけです。スレーブからのオーディオ信号は "#ReWire-In Device" を通して Renoise に供給されます。もし Renoise の再生ボタンを押せばスレーブも同時に再生が始まりますし、再生ポジションを変更すればスレーブも追従します。また、スレーブ側で再生ボタンを操作した場合、Renoise もそれに追従します。既にこれらのソフトは、互いに同期し合っています。

もし、同じスレーブからの別のオーディオ・バスを扱いたい場合は、"#ReWire-In Device" をもう1つロードし、同じスレーブ・違うチャンネルを選択してください。こうすると、同じスレーブから複数のバスを介してオーディオ信号を個別に扱う事が出来ます。

もしスレーブがMIDIインプットを備えていれば、Renoise の "Instrument Settings" の MIDI Properties 欄にリスト表示されます。これらを(普通のMIDIインストゥルメントと同じ様に)使う事で、例えば Renoise内で Reason の内蔵シンセを扱えます。



ReWire接続されたシンセ (Reason等) のオートメーション:

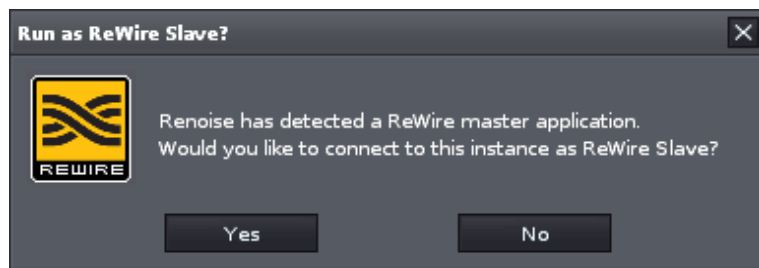
Renoise内で、ReWire MIDI インストゥルメントをロードした場合、"*MIDI-Control Device" を使ってそのシンセのパラメーターをオートメーションさせる事が出来ます。もしそのシンセが対応しているなら、"*MIDI-Control Device" のパラメーター・リストに各パラメーター名が表示されます。



Renoise を ReWire スレーブとして使う方法

まず最初に、ReWireマスターとして使いたい音楽ソフトを起動します。その後に Renoise を起動させてください。Renoise は「ReWireスレーブとして起動しますか?」という確認メッセージを表示しますので、「Yes」をクリックしてください。

(もしこの確認メッセージが出ない場合は、まずマスター側の ReWire設定欄で Renoise を選択してください。そうすると大抵の場合、自動的に Renoise がスレーブとして立ち上がると思います)



多くのマルチトラック・シーケンサーでは、Renoise を "オーディオ・インプット" として選択します。詳しい設定方法はマスター・ソフトの説明書を読んでください。

一旦マスターのミキサーに Renoise をルーティングしてしまえば、後は自由に操作出来るはずです。Renoise のオーディオ信号はマスターへと送信されます。スタート、ストップ、再生位置変更等の操作も両ソフトで同期します。

Renoise を ReWire マスターまたはスレーブとして使う場合の注意点

いくつかの ReWireスレーブ・ソフトでは、トランスポート操作に制限があるかもしれません。ReWireマスターでしかトランスポート操作が出来ない場合があります。例えば、いくつかの ReWireマスター・ソフトは、Renoise(スレーブ)からのテンポ・チェンジやループ・チェンジ、ポジション・チェンジを認識しません。これは Renoise の欠陥ではなく、マスター・ソフト側の ReWire対応状況による制限です。

Renoise デモ版の ReWire の機能制限

Renoise のデモ版の ReWire には2つの機能制限があります。

- 1) Renoise を ReWireマスターとして使う場合、スレーブ側のアウトプットは最初の2チャンネル(マスターチャンネル)しか使えません。
- 2) Renoise を ReWireスレーブとして使う場合、定期的なヒスノイズが挿入されます。

Link

- [ReWire対応音楽ソフトの一覧表 \(Renoiseとの相性調査\)](#)